

キャンパスマスタープラン2025の 策定について

大学キャンパスは、創造性を備えた人材の育成や高度な教育・研究、医療活動を展開する拠点であると同時に、地域社会に知と価値を還元する重要な場です。学生や教職員、卒業生にとっては学びと成長の象徴であり、来訪者や受験生に大学の魅力を伝える存在でもあります。このように、キャンパスの在り方は、大学のブランドや評価を形成する基盤の一つです。

21世紀に入り、社会の変化は一層加速しています。我が国の大学を取り巻く環境も、国際競争の激化や人口減少・少子高齢化などにより、大きな転換期を迎えています。さらに、自然災害や感染症の経験を通じて、安全・安心の確保や防災・衛生機能の重要性が強く認識されるようになりました。こうした状況のもと、大学には機能強化と持続可能な運営体制の構築が求められています。

本学では、「理念」と「目標」を掲げ、教育・研究・社会貢献活動を推進しています。キャンパスマスタープランは、これらを具体的な空間として実現するための整備の方向性を示すものであり、施設は大学経営を支える戦略的資源として捉える点に意義があります。

本計画は、これまでのキャンパスマスタープランを継承・検証しつつ、大学キャンパスに求められる新たな役割を見据えて取りまとめたものです。教育研究活動と施設整備を一体的に捉え、将来にわたり柔軟に進化できるキャンパスの姿を描いています。

近年示された「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」の考え方は、大学の諸活動とキャンパス空間の関係性を再定義する重要な視点です。本学においても、その具体化を図っていくことが重要であると考えています。

本学が拠点を置く富山の地は、豊かで多様な自然環境と都市機能が調和した、他に類を見ない特色を有しています。この環境のもと、多くの志ある若者が集い、それぞれの挑戦を展開する舞台としてキャンパスが活用されることを期待しています。

本学の強みや個性を生かし、「夢があり個性きらめくキャンパスづくり」の実現に向けて、構成員一人ひとりと歩みを進めてまいります。今後とも、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和8年3月

キャンパスマスタープラン
検討ワーキンググループ長
安永 数明

